

適切な意思決定支援に関する指針

1. 基本方針

人生の最終段階を迎える患者が、その人らしい最期を迎えられるよう、多職種の医療・介護従事者にて構成される医療・ケアチームは、患者・家族等に適切な説明と話し合いを行うことに努め、患者本人の意思決定を尊重した医療・ケアを提供します。

2. 人生最終段階の定義

人生の最終段階とは、患者自身の状態をふまえて、医療・ケアチームにて判断します。

- ・ がん末期のように、予後が数日～長くとも数ヶ月と予測される場合
- ・ 慢性疾患の急性増悪を繰り返すなど、予後が短い可能性が高いと予測される場合
- ・ 多発性脳梗塞や加齢にともなう老衰など、予後が数ヶ月から数年と予測される場合

3. 人生の最終段階における医療・ケアのあり方

- ・ 医師・ケアチームは、患者本人の意思が、変化しうるものであることをふまえつつ、患者本人が自らの意思を都度示し、周囲に伝えることができる支援を行って参ります。
- ・ 患者本人が自らの意思を伝えられない状態になる可能性がある場合、家族など信頼できる方も含めて、患者本人と話し合いを繰り返し行います。また、この話し合いに先立ち、患者本人が、家族などのうち特定の者を、自らの意思を推定できる者として前もって定めておくことが重要と考えます。
- ・ 人生の最終段階における医療・ケアについて、医療・ケア行為の開始・不開始、医療・ケア内容の変更、医療・ケア行為の中止等は、医療・ケアチームによって医学的妥当性と適切性を基に慎重に判断します。
- ・ 医療・ケアチームは、可能な限り、疼痛やその他の不快な症状を緩和するよう努め、患者本人・家族等に対して、精神的・社会的な援助も含めて総合的な医療・ケアを行います
- ・ 生命を短縮させる意図をもつ積極的安楽死については、本指針では対象としません。

4. 人生最終段階における医療・ケア方針の決定手順（プロセス）について

人生の最終段階における医療・ケアの方針決定は次のものとしします。

【患者本人の意思確認ができる場合】

- (1) 患者本人の状態に応じた、専門的な医学的検討を経て、医師などの医療従事者から、適切な情報の提供と説明を行います。患者本人と医療・ケアチームとの合意形成に向けた十分な話し合いをふまえた上で示された、本人による意思決定を基本とし、多職種の医療・介護従事者にて構成される医療・ケアチームとしての方針決定を行います。
- (2) 時間の経過、心身の状態の変化、医学的評価の変更などに応じて、患者本人の意思は変わりうるものです。その都度、適切な情報提供と説明を行い、患者本人が自らの意思の変化を家族や医療・ケアチームに伝えることができるように支援します。
なお、患者本人が自らの意思を伝えられなくなる場合も想定し、家族などを含めた話し合いを繰り返し実施できるよう努めます。

(3) このプロセスにおいて話し合った内容についてはその都度、診療録に記載します。

【患者本人の意思確認ができない場合】

患者本人の意思確認ができない場合には、次のような手順により、医療・ケアチームのなかで慎重に判断します。

- (1) 家族等が患者本人の意思を推定できる場合には、その推定意思を尊重し、患者本人にとって最善の方針をとることを基本とします。
- (2) 家族などが患者本人の意思を推定できない場合には、患者本人に代わるものとして家族などと十分に話し合い、患者本人にとって最善の方針をとることを基本とします。
- (3) 時間の経過、心身の状態の変化、医学的評価の変更等に応じて、話し合いを繰り返し実施できるよう努めます。
- (4) このプロセスにおいて話し合った内容についてはその都度、診療録に記載します。

【複数の専門家からなる話し合いの場の設置が必要な場合】

方針の決定に際し、家族間での意見がまとまらない場合や、医療・ケアの方針が決定できない場合には、患者本人または家族などの同意を得て、外部の専門化家を交え、方針等について検討します。

- ・医療・ケアチームとの話し合いにおいて、心身の状態により医療・ケアの内容決定が困難な場合
- ・患者本人と医療・ケアチームとの話し合いを重ねても、妥当で適切な医療・ケアの内容について合意が得られない場合
- ・家族間での意見がまとまらない場合等、医療・ケアの方針が決定できない場合

2022年4月策定

医療法人高生会

高生会リハビリテーションクリニック